

末梢血液鏡検を契機に *Malassezia furfur* が検出されたカテーテル関連血流感染症の 1 症例

◎小野田 薫¹⁾、井上 卓¹⁾、深澤 真¹⁾、大竹 麻衣子¹⁾、家弓 舞子¹⁾、松島 江理¹⁾、神園 万寿世¹⁾
地方独立行政法人 静岡県立病院機構 静岡県立こども病院¹⁾

【はじめに】*Malassezia furfur* は皮膚に常在する酵母様真菌であるが、脂肪要求性のため通常血液培養ボトルでは発育しない。今回末梢血液鏡検を契機に酵母様真菌による菌血症が疑われ血液および抜去した中心静脈カテーテルから *Malassezia furfur* を検出したので報告する。

【症例・経過】2歳男児。Hirschsprung 病類縁疾患術後、短腸症候群となり入院管理で中心静脈栄養管理を行っていた。カテーテル感染が疑われ VCM 投与中に 39.2℃の再発熱があり MEPM が追加投与された。再発熱から 2 日目の末梢血液像に酵母様真菌を認めたため MCFG に変更。9 日目に抜去した中心静脈カテーテルから酵母様真菌が検出され *Malassezia* 属が疑われたため 13 日目に FLCZ にさらに変更された。16 日目の血液培養で陰性が確認され 30 日目に治療終了となった。

【微生物学的検査】抜去した中心静脈カテーテルのグラム染色で酵母様真菌を認めたが、末梢血液像に酵母様真菌を認めた日に提出された血液培養が 7 日間陰性経過していたため血液培養ボトルからのグラム染色を実施した。形態か

ら *Malassezia* 属を疑い、ポテトデキストロース CP 寒天培地（極東製薬）にオリーブオイルを重層しサブカルチャーを行った。しかし菌の発育を認めなかったため 5 日目に再提出された血液培養をさらにサブカルチャーし、ポテトデキストロース CP 寒天培地およびクロモアガーカンジダ培地（関東化学）にそれぞれオリーブオイルと患児に使用していた静注用脂肪乳剤（イントラリポス）を重層し 35℃で好気培養を行った。ポテトデキストロース CP 寒天培地およびクロモアガーカンジダ培地ともに菌の発育を認め質量分析装置（BRUKER）で *Malassezia furfur* と同定された。抜去したカテーテルからも *Malassezia furfur* が検出されたため中心静脈カテーテル関連血流感染症と診断された。

【結語】*Malassezia furfur* は脂肪要求性のため通常血液培養では検出されず、専用培地がないと検出が困難である。本症例は血液担当者からの情報と既存の培地に院内所有の脂質製剤を添加することで血液培養から *Malassezia furfur* を検出でき診断に繋がった。

連絡先：054-247-6251（内線：2328）